

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-182537

⑨ Int. Cl.³
B 60 P 7/02

識別記号

庁内整理番号
7214-3D

⑭ 公開 昭和57年(1982)11月10日

発明の数 1
審査請求 有

(全 5 頁)

⑮ トラックの後部覆付幌の折たたみ開閉自動駆
動装置

⑯ 特 願 昭56-66584

⑰ 出 願 昭56(1981)4月30日

⑱ 発 明 者 稲葉良貞

大阪市天王寺区細工谷町55

⑲ 出 願 人 株式会社進精金属製作所

東大阪市高井田本通4丁目15

⑳ 代 理 人 弁理士 辻本一義

明 細 書

1. 発明の名称

トラックの後部覆付幌の折たたみ開閉自動
駆動装置

2. 特許請求の範囲

1. 荷台の囲い(1)に沿って前後移動する様にした
移動基板(2)に、幌(4)後部の覆(3)の最後端の骨(5)
を固定した回転円盤(6)を装着し、この円盤(6)の
回転により前記最後端の骨(5)が回転する様にし
たことを特徴とするトラックの後部覆付幌の折
たたみ開閉自動駆動装置。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、トラックの後部覆付幌の折たたみ
開閉自動駆動装置に関するものである。トラック
の貨物の大半は雨ぬれを禁じられているが、アル
ミケース覆や固定式覆の場合、荷役は依然として
人力に頼らねばならず、トラックの大増化によつ
て一台の荷役(積降し作業)は走行の労力よりも
大である。又、固定式の覆でない場合は、積降し
覆を被せるのに一時間以上もかかり、しかもその

作業自体が重労働で運転者の悩のたねとなつてい
る。

そこでこの発明は、荷役の前後に運転席での操
作で幌の伸張、折りたたみのみならず、幌後端の
覆までも自動的に開閉でき、しかも折たたんだ幌
及び後部の覆は荷台の前端に嵩低く納めることが
でき、クレーンやリフトトラックの荷役に支障が
なく、その上運送事業の省力化に多大の貢献をし
うる極めて便利なトラックの後部覆付幌の折たた
み開閉自動駆動装置を提供することを目的とする
ものである。

以下、実施例として示した図面に従つて、この
発明の構成を説明する。

先ず、第1図及び第3図に見る様に、トラック
の荷台の囲い(1)の内側に適宜間隔を置いて複数の
レール取付柱(12)を立設し、荷台の全長にわたつて
柱(12)の外側にレール(13)を取付けている。又車の型
式によつては取付柱をなくしボディに直付する事
がある。そして幌(4)の各骨(5)は下部に一對の車輪
(8)(8)を装着し、この車輪(8)を介して前後移動可能

として前記レール(3)に支持されている。また、幌(4)の最後端の骨(5)は、四角形とした移動基板(7)にその下部を固定して支持され、この基板(7)は四箇の車輪(8)を介して前記レール(3)を前後に移動しうる様になつてゐる。この基板(7)は、外側に回転円盤(9)を装着し、この円盤(9)はその一部分にピニオン(10)を設け、このピニオン(10)は、レール(3)の後部適宜位置に固定されたラック(11)とかみ合う様になつてゐる。尚、前記基板(7)は、その上部において幌(4)後部の覆(12)の骨(13)を回動可能に支持し、また、前記円盤(9)は最後端の骨(13)を固定している。

そして、前記レール(3)の前後端に鎮座車輪(14)を固定して鎮座させ、この鎮座車輪(14)は一箇所において前記基板(7)の裏面に固定されている。従つて鎮座車輪(14)は、基板(7)とレール(3)間に位置している。また、幌(4)の最後端の骨(5)と後部の覆(12)の最後端の骨(13)にスプリング(15)の端部が取付けられている。尚、前記鎮座車輪(14)を駆動するためのモーター（図示せず）が運転席の後方適宜位置に設置されている。

次に、上述の如き構造としたこの発明の作動状

態を説明する。

先ず、第1図の様に幌(4)及び覆(12)を被せた状態から幌(4)及び覆(12)を折りたたむためには、移動基板(7)が前方に移動する様に鎮座車輪(14)を作動させる。すると基板(7)が第5図に見る様にラック(11)とかみ合い、回転円盤(9)が前方に回動し、従つて最後端の骨(13)が回動して立ち上がる。そうして基板(7)は更に前進させられて最後端の骨(13)が垂直に立ち、ピニオン(10)がラック(11)から離れ、第4図の状態では基板(7)が前進し続ける。このとき、幌(4)の最後端の骨(5)に押されて幌(4)が除々に折りたたまれ、各骨(5)が順次前方に押されて移動し、遂には、第2図の状態になつて幌(4)及び覆(12)の折りたたみが完了する。尚、垂直に立ち上がった最後端の骨(13)は、スプリング(15)により引つ張られているため後方に倒れることを阻止されている。

逆に、幌(4)及び覆(12)を被せるためには、第2図の状態から鎮座車輪(14)を反転させて移動基板(7)を後方に移動させる。すると骨(5)が順次後方に移動し、幌(4)が除々に延ばされる。そして、基板(7)がラック

(11)の位置まで来るとピニオン(10)がラック(11)とかみ合つて回転円盤(9)が後方に回動し、覆(12)の最後端の骨(13)がスプリング(15)の引張力に抗して後方に倒れ、第5図に見る様な状態になり、幌(4)及び覆(12)が完全に被せられて作業が完了する。

(17) 骨(16)は筋交で、骨(16)が移動時に垂直状態を保ち、スムーズな移動のために必要に応じて設けられるものである。尚実施例で鎮座車輪(14)としたのは、その他ワイヤーやロープとして実施することも可能である。

上述の如く、この発明は、荷役の前後に運転席での操作で幌の伸張、折りたたみのみならず、幌後部の覆までも自動的に開閉でき、しかも折たたんだ幌及び後部の覆は荷台の前端に嵩低く納めることができ、クレーンやリフトトラックの荷役に支障がなく、その上運送事業の省力化に多大の貢献をしうる極めて便利なトラックの後部覆付幌の折りたたみ開閉自動駆動装置を提供するものである。

4. 図面の簡単な説明

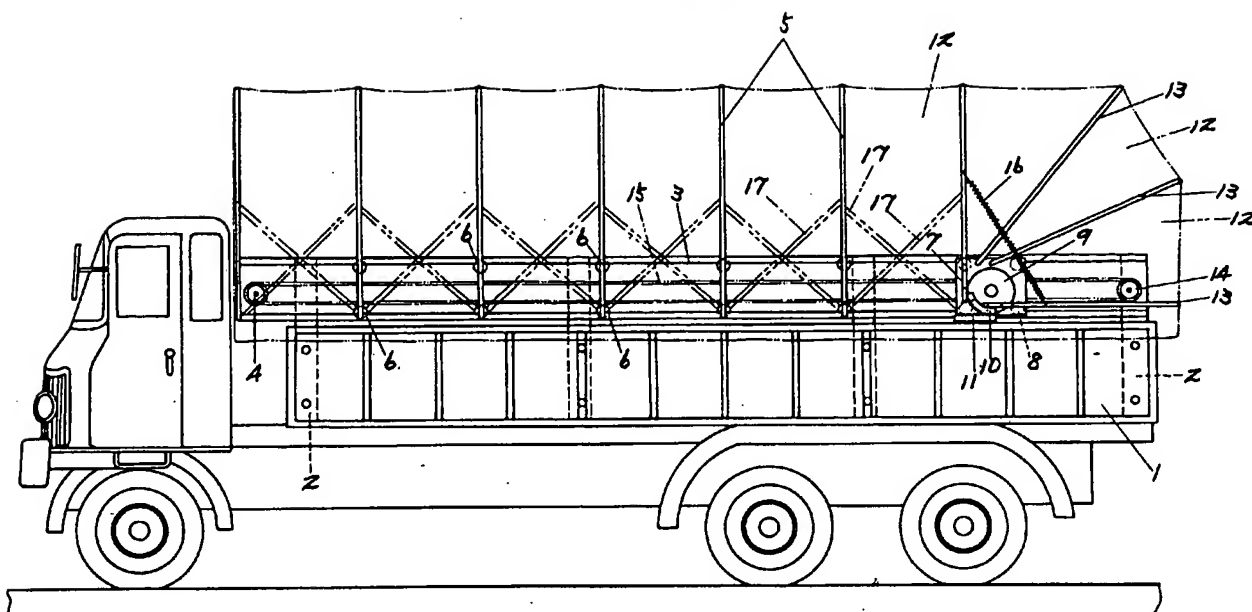
第1図は、幌及び覆が被せられた状態の説明図。

第2図は、幌及び覆が折りたたまれた状態の説明図。第3図は、第1図の状態を後面より見た説明図。第4図は、覆の最後端の骨が立つた状態を示す説明図。第5図は、覆の最後端の骨が倒れて幌が完全に被つた状態を示す説明図。第6図は、この発明の要部縦断面図。

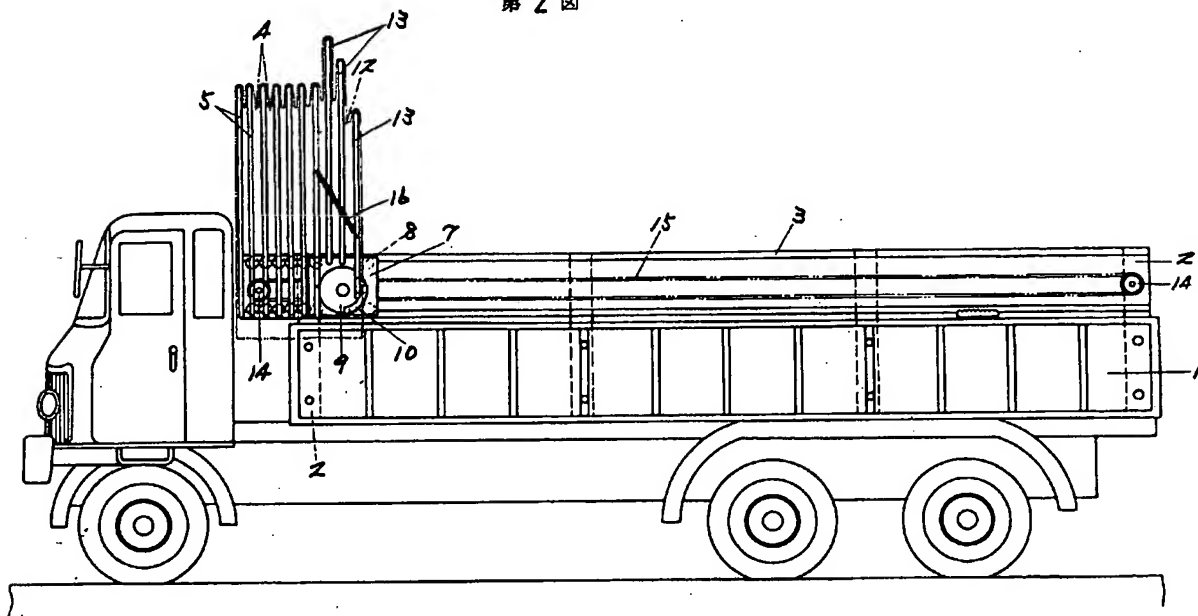
11… 図11 14… 幌
17… 移動基板 18… 回転円盤
12… 覆 13… 覆の最後端の骨

代理人 弁理士 辻 本 一 義

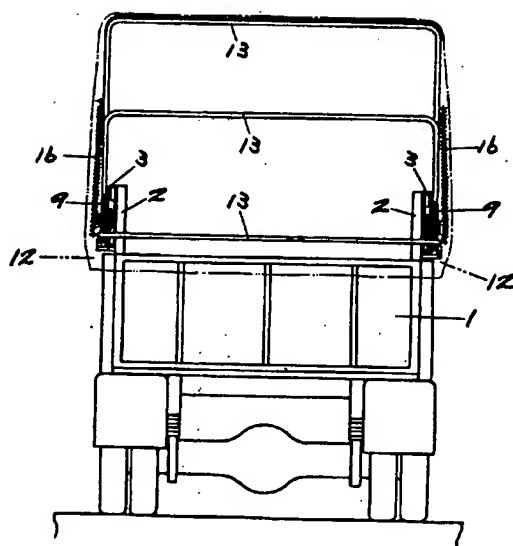
第 1 図



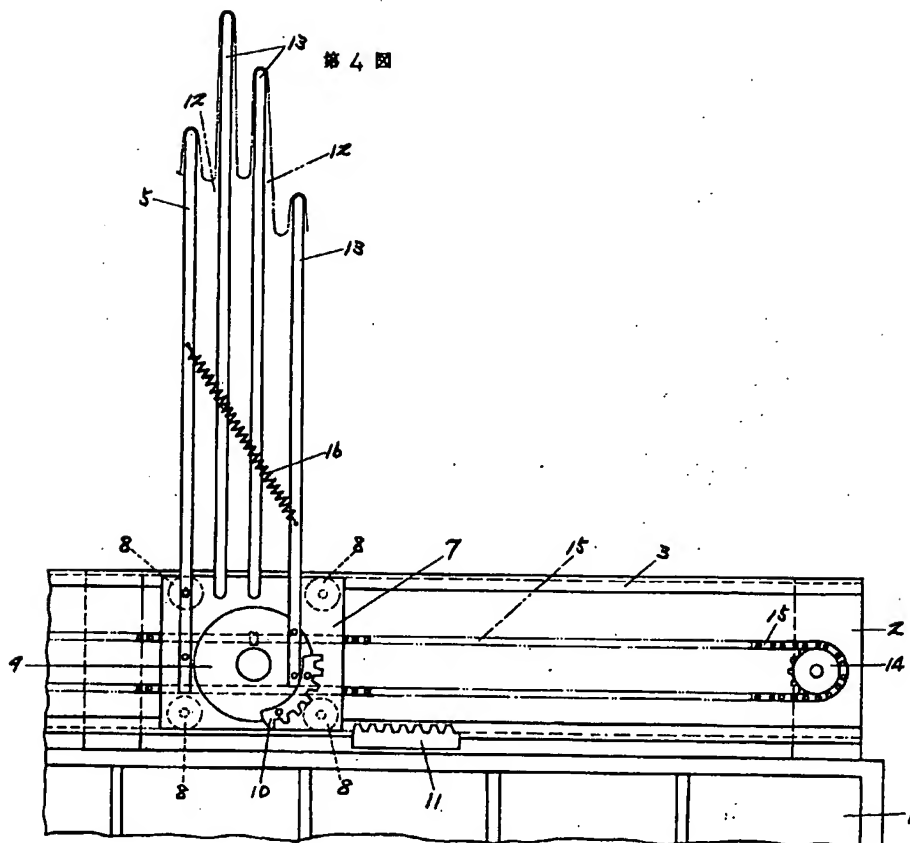
第 2 図

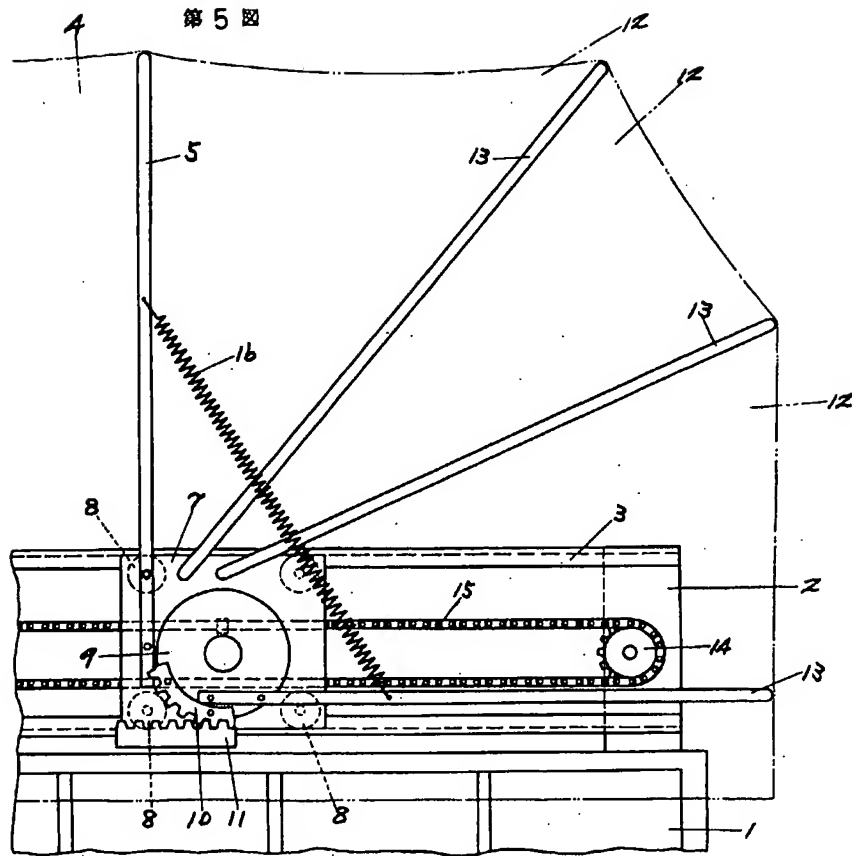


第3図



第4図





第6圖

